

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 四日市市	対談項目1 近鉄内部・八王子線への支援について	<p>近鉄は、内部・八王子線を仮に鉄道で残すのであれば、公有民営方式に転換したうえで、経営赤字の全額補填補助を受けなければ継続は困難であるという立場を一貫してとっている。</p> <p>市としては、今後の少子・高齢化社会における公共交通の重要性を強く認識し、鉄道の形で存続し、鉄道駅を拠点としたまちづくりを進めていきたいという強い思いを持っており、このことは市の総合計画や都市総合交通戦略の中に明確に位置づけている。内部・八王子線は年間約363万人が利用し、沿線には県立高校等5校が立地している。また、名古屋線への乗り継ぎ利用者が75%であり、非常に重要な地域の路線である。</p> <p>国の補助スキームに基づく県の支援はもちろん、今後さらなる支援策についても前向きに検討していただきたい。</p>	<p>公共交通が路線撤退する場合、今までは許可制だったが、規制緩和によって届出制になり、民間事業者が撤退しやすい状況になった。その一方、少子化や車社会の進展、このようなことで公共交通機関が大変厳しい。併せて、県・国・市町の財政状況が大変厳しい状況にある。</p> <p>地方鉄道の支援では、県は国と協調して、いろんな設備整備の協調補助を行っているのが現状である。その中で、内部・八王子線については、5月28日から県も協議に参加したが、一方でタイムリミットがあるということもある。したがって、県も市とともに鉄道として存続するための知恵出し・議論の加速化をしっかりとやっていきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 四日市市	対談項目2 児童発達支援センターあけぼの学園移転整備にかかる支援について	県立特別支援学校北勢きらら学園との連携	あけぼの学園は、四日市市・三重郡を中心に障がい児支援の拠点として運営されている施設である。昭和36年に開設され、50年以上経過し、非常に老朽化が激しい。そこで、きらら学園の隣に移転整備する計画の策定作業を今進めている。整備にあたっては、児童福祉法の改正に対応しつつ、よりよい療育環境を整えるという意味で、きらら学園の隣という立地条件を生かした連携を図ることで機能強化を図っていききたい。	西日野にじ学園と北勢きらら学園で毎年あけぼの学園の保護者の皆さんによる見学会を開催している。そうした中で、西日野にじ学園とは近いということもあって、いい連携があると思うが、今後移転先のきらら学園との連携に向けてしっかり強化していききたい。その中で引き継ぎが重要だと思うが、県ではパーソナルカルテ、市では相談支援ファイルといった、幼小中高と途切れのない支援をしっかりとしていこうという趣旨の同じ機能のものがあ、そこでしっかり連携を図って、あけぼの学園から北勢きらら学園に円滑な就学が可能となり、子どもたちへの支援が途切れなく引き継ぎされていくよう、そういう部分の支援を関係教育委員会が中心となって市と連携してやっていききたい。

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 四日市市	対談項目2 児童発達支援センターあけぼの学園移転整備にかかる支援について	ハード面の支援 ソフト面の支援	<p>施設整備におけるハード面や、専門性を持った人材の育成や派遣、特に医師、小児あるいは小児精神医師の派遣制度の確立といったソフト面も含めて、ぜひ支援をお願いしたい。</p> <p>あけぼの学園に草の実リハビリテーションセンターの整形外科医が、昨年度で7回訪問して療育についての相談を現場で受けるようにしている。今年度も7回予定しているの、移転の有無に関わらず継続し、市で行うあけぼの学園におけるリハビリなどの医療サポートが後退しないように地域療育の支援をしていきたい。あすなろ学園でもそうした形でできればいいが、新規外来の予約待ちが6か月程度という状況なので、児童精神科医師がたくさん訪問するのは難しい状況である。四日市市近郊でも「日永」、「あさけ診療所」といった心身発達の対応ができる医療機関があるので、そうした所とのネットワーク構築で医療部分でのもれがないような支援をしていきたい。あすなろ学園では、市町の方に来ていただき、半年又は1年の研修を受けていただいて、市町へ戻って体制構築をしていただくという人材育成を行っている。四日市市の保育士さんも積極的に研修を受けていただいたと聞いているので、そうした形での専門性のアップ、システムアドバイザーの派遣といったことでこれからもしっかりやっていきたい。</p>

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
				<p>今、市町が設置するあけぼの学園のような施設についての国庫補助の制度は補助対象外となっている。県単独の支援については、今のところ財源等の課題があって難しいという状況がある。したがってハードの方は少し難しいと思うが、ソフトの面で今申し上げたような引き続きの支援と充実を図っていき、一人ひとりの発達に障がいを抱えた子どもたち、その親御さんたちが安心していただけるような対応を、県としても市と相互に連携して県全体の総合力を高めていくということができればと思っている。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 四日市市	対談項目3 都市制度改革に伴う中核市への移行について	<p>6月17日に第30次地方制度調査会において「大都市整備の改革及び基礎自治体の行政サービス提供体制に関する答申」が示された。この答申の中に中核市制度と特例市制度を統合して、人口20万人以上であれば、保健所を設置することによって中核市となると示されている。四日市市は平成20年度から保健所政令市という形で実績を積んでいる。今後、この答申を受けて、地方自治法の改正がなされるのではないかと思う。新しい制度ができたから、新制度による中核市要件は満たしていると考えられるので、法律改正に即座に対応して、新しい制度の適応を受ける形で円滑な中核市への移行ができるような具体的な協議を法律改正の推移をみながらお願いしたい。</p>	<p>従来から四日市市が中核市に移行する場合には、県としてもしっかりサポートしていく旨申し上げてきたところである。地方自治法の改正が今回の答申内容に沿ってなされていくと思うが、県としても国に対して答申どおり法制化が、早期にしっかりとされるようにという働きかけを市と一緒にやっていきたいと思う。また、保健所を設置して5年の実績もあるので、そういう意味では答申との関係では要件を満たしているの、法制化後に適用されるということに向けての国に対しての働きかけも一緒にしていきたい。並行して、実際にどういう事務や権限をやっていただくのかということについても議論したいし、さらにそれを円滑に移譲できるような形での人的・財政面でのいろんな議論・サポートを一緒にしていきたいと思っている。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 四日市市	対談項目4 国体を見据えた総合体育館整備について	<p>平成33年の三重県国体・全国障害者スポーツ大会に向けて、四日市市としても体操競技・サッカー・テニスといった数種目の競技を誘致したいと考えて準備しているところであるが、新たな施設整備が財政的な問題も含めて課題になっている。北勢地域に全国・東海ブロックレベルの大規模な公式競技大会のできる総合体育館が一つもない状況で、立地条件の良い中央緑地の中に総合体育館を中心としたスポーツ施設を整備することが費用対効果から考えても効果が大きいと考えている。三重国体という県全体の大きな目標に向けて、県全体のスポーツ振興を図るという意味でも、あるいはスポーツ観光という視点でも活性化を図るためにこうした施設が北勢に必要だと思っている。県の競技スポーツ振興の拠点となる総合体育館を、県営施設という形での整備を中長期的な視点でぜひ前向きに検討していただきたい。</p>	<p>国体の施設の考え方としては、「県内の既存施設を活用することを原則とする」、「整備を行う場合は、真に必要な施設に限定するとともに大会後も地域住民に広く活用されることに配慮する」という基本方針を準備委員会で決めさせていただいているところである。さらに3月に策定した県のスポーツ施設整備計画で「市町が広域的拠点施設として施設を新築又は改築する場合に補助の対象として一定の支援を行う」と決めたところである。国体の施設整備に対する補助制度は、先に開催した県の例でいくと5年前に制度創設、したがって平成28年度に市町のこういう整備に対して県がこういう補助をするという制度をだすことになる。広域的な施設として活用できるか否か、整備後も地域住民の方に利用していただけるかどうか、そういうことの中身を今後補助制度を作る28年度までに向けて議論させていただければと思っている。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 四日市市	当日追加項目1 四日市エコロジー・インターナショナルについて	<p>四日市エコロジー・インターナショナルでは、主に環境関連の学会とか大会といったイベント行事の開催を誘致する際に、26年度の開館を目指して整備を進めている四日市公害と環境未来館（仮称）、非常に好評を博しているコンビナートと港の夜景クルーズ、あるいは四日市としては非常に意外性のある鈴鹿山麓の里山や茶畑、ふれあい牧場といった自然景観を合わせた四日市の地域資源・魅力、こういったものを組み合わせる観光的な要素を加味した体験的な見学会（エクスカージョン）を学会や大会と組み合わせ提供できればと思っている。四日市としての魅力・特徴を最大限に生かした、そういう付加価値を高めた内容でコンベンションの誘致を進めていく中で、県の観光戦略とうまく整合性を取って連携を強化していくことができれば、三重県への来訪者が飛躍的に増えていくのではないかと期待しているので、県と市のコラボレーションについて、今後こちらから具体的な事業として提案していくので、協議に応じていただければ、大変ありがたい。</p>	<p>学会とか大会を誘致するのは非常にいいと思う。観光だけでなく、学会や大会で来ていただいて、それにちょっと寄り道していただいて観光もしていただいてというのが、特に四日市には向いていると思うし、いいと思う。こういうイベントの誘致というのは、情報収集の段階からみんなでアンテナを高く張らないといけないので、県もアンテナを張って、アイセットもあるし、四日市のアイデンティティとして「これから環境を」というのは非常にいいと思うので、協力できることをしっかりやっていきたいと思う。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
7 四日市市	当日追加項目2 ナンバー43プロジェクトについて	<p>ナンバー43プロジェクトは、四日市の4と三重県の3を意味する謎の数字ということで43をアピールしていこうという取組である。例えば、近鉄四日市駅1階のコンコースに昨年、四日市の観光案内所として四十三茶屋を開設して43プロジェクトのひとつのスタートとなったが、今後、中心市街地の飲食店に43という数字を記した提灯を掲げたりして43という数字をじわじわと地域の人や他所から来ていただいた来訪者に浸透させ、四日市や三重県のいろんな魅力と連動させることによって、「43という数字はなんだろうな」と、その後いろんなものと結びついて「そういう意味か」ということを分かってもらい、そういう趣旨で43という数字を打ち出していけば、四日市や三重県の産品をブランド化していくうえで、ひとつのツールになるのではないかと考えており、この43という数字の連携についてもぜひお願いしたい。</p>	<p>こういう特色あるプロジェクトは非常におもしろいと思う。観光キャンペーンで半年ごとにガイドブックを作り直していくので、そういうのに向けて観光キャンペーンの中でどういう連携ができるか、ぜひ検討させていただきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
8 四日市市	当日追加項目3 県内のゆるキャライベントと三重県版B-1グランプリの開催について	県内のゆるキャライベント	三重県内にもたくさんのゆるキャラがあるが、どの地域にどんなゆるキャラがあるかというのを、例えば四日市でも5つか6つあるが、市民の皆さんが知っているのは「こにゅうどうくん」くらいであり知られていない。三重県中集めれば相当な数になるし、県民の皆さんに周知するという意味もあって、例えば県内のゆるキャラが一堂に会するようなイベントを開催したらどうか。	私自身腹案があって、ここではまだ発表できないが、数日前に担当に指示したところであって、乞うご期待で。三重県内に分かっているだけで約100のゆるキャラがある。県のホームページのトップページで地域別に見れるようにしてあるので、もっと周知したい。
9 四日市市	当日追加項目3 県内のゆるキャライベントと三重県版B-1グランプリの開催について	三重県版B-1グランプリ	三重県版B-1グランプリのようなイベントを、例えば北勢・中勢・南勢・伊賀、これくらいの地域ブロックに分けて持ち回りで開催することで、三重県にどんなB級グルメがあるのかということを知っていただく。そのうえで、例えば観光キャンペーンで発行しているみえ旅パスポートにB級グルメを食べた店でスタンプを押してもらって特典に結びつくような試みをやっていけば、先ほどのゆるキャラも含めて、県全体の地域の魅力の周知を図り、それが同時に三重県中の住民が交流することによって県の活性化にもつながるのではないかと考える。一度、県の担当部局で検討していただくと大変ありがたい。	B-1グランプリについては、今度名張でちょっとやってもらったり、亀山が今月中旬にみそ焼きうどんサミットをやったりなどで、少し気運も盛り上がってきている。もともとは、B-1の中日本大会を呼んでこようとか、いろんな気運もあったが、少しいろんなイベントとの整理もしながら、いずれにしてもB級グルメが一堂に会する場面というか、そういうものについてご提案をいただいたので、担当部局でよく検討したいと思う。